

第2回 尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議

- 1 開催日時
令和7年2月17日（月）
開会 午後3時
閉会 午後4時57分
- 2 開催場所
尾張旭市役所南庁舎3階 講堂1
- 3 出席委員
水津 功、鈴木 温、川口 暢子、加藤 健二郎、櫻井 由典、野村 治、
松原 しず、奥村 紀代子、水戸部 茂樹
9名
- 4 欠席委員
0名
- 5 オブザーバー
愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長代理都市計画課長補佐 小島 健
愛知県尾張建設事務所企画調整監代理総務課企画・防災グループ課長補佐 高木 直貴
- 6 欠席オブザーバー
0名
- 7 傍聴者数
0名
- 8 出席した事務局職員
都市整備部長 伊藤 秀記、都市整備部主幹 堤 史尚、都市計画課長 望月 滋之、
都市計画課係長 小菅 匡範、都市計画課 菱田 和明
- 9 議題等
 - (1) はじめに
 - (2) 議題
第3次尾張旭市都市計画マスタープラン（素案）全体構想について
 - (3) その他
- 10 会議の要旨

事務局 (都市整備部長)	それでは、皆様、大変お待たせしました。定刻となりましたので、ただいまから「第2回尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議」を始めさせていただきます。 私は、尾張旭市都市整備部長の伊藤と申します。よろしくお願いたします。 本日は、大変お忙しい中、本会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。 また、日頃は本市行政に対して、格別の御理解と御協力を賜っておりますことに対し、改めて御礼申し上げます。 それでは、恐れ入りますが、以後は着座にて失礼いたします。
-----------------	---

	<p>さて、第2回目となる本日の会議の議題につきましては、次第にありますとおり、「第3次尾張旭市都市計画マスタープラン（素案）全体構想について」の1件となりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、皆様に連絡事項が2点ございますので、事務局より説明させていただきます。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>都市計画課長の望月と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず1点目は、会議の公開についてです。</p> <p>本会議につきましては、公開の対象となっております。会議の公開につきましては、市民の皆様には会議の開催をホームページなどでお知らせし、希望される方については会議を傍聴していただくものでございます。</p> <p>会議開催後には、本日の会議録などの資料も公開いたしますので、御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>次に、2点目といたしまして、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前にお配りした資料としまして、また本日、再度配付させていただいておりますけれども、第2回尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議の次第、資料1としまして第3次尾張旭市都市計画マスタープラン（素案）、参考資料1としまして市民ワークショップ「フューチャーデザインラボ」ニュースレター、参考資料2としまして将来必要となる住宅用地と産業用地について、参考資料3として構成員等及び出席者名簿、参考資料4としまして事務局等出席者名簿、参考資料5としまして尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議設置要綱、参考資料6としまして第2回尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議配席図と、非常に多くの資料を配付しておりますが、不足している資料はございませんでしょうか。</p> <p>事務局からの連絡事項は、以上です。</p>
事務局 (都市整備部長)	<p>皆様、資料のほうは、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の出席者について御報告いたします。</p> <p>会議構成員9名のうち全員の方に御出席をいただいております。尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議設置要綱第5条第2項に規定する過半数の出席を得ておりますので、本会議は有効に成立しておりますことを御報告いたします。</p> <p>次に、本日御出席いただきましたオブザーバーの皆様をお席の順に御紹介させていただきます。</p> <p>初めに、愛知県都市・交通局都市基盤部都市計画課長 伊藤 慎悟 様、本日は代理として、都市計画課長補佐の小島 健 様に御出席をいただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、愛知県尾張建設事務所企画調整監 安藤 彰祥</p>

	<p>様、本日は代理として、愛知県尾張建設事務所総務課企画・防災グループ課長補佐の高木 直貴 様に御出席いただいております。よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日出席しております私も事務局の職員につきましては、時間の都合上割愛させていただきます。</p> <p>恐れ入りますが、事務局等出席者名簿にて御確認いただきたいと存じます。よろしく申し上げます。</p> <p>さて、会議を進めてまいります。会議の進行につきましては、尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議設置要綱の第4条第2項に、会長は、会議を代表し、会務を総理するとありますので、以後の会議の進行につきましては、水津様にお願いしたいと思っております。</p> <p>それでは、水津会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>皆様、こんにちは。第2回目の尾張旭市都市計画マスタープラン策定検討会議を開催します。</p> <p>本日は議題が1つですが、内容がやや長いため、説明の後に各章ごとに意見を伺う形で進めたいと思っております。</p> <p>それでは、次第1の「はじめに」について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>次第1の「はじめに」として、前回会議からの経過やスケジュールについて共有します。</p> <p>机上に配布したA4カラーのスケジュール資料を御覧ください。全体スケジュールの表の下から3行目にある『策定検討会議』を御確認ください。</p> <p>前回の第1回会議は8月7日に開催し、本日が第2回となります。令和7年度には第3回から第5回までの会議を予定しており、年度末に計画を完成させる予定です。</p> <p>8月の第1回会議以降、表の最上段にある『地域別ワークショップ』として計4回の市民ワークショップを実施しました。市民の意見を参考にしながら、庁内で全体構想の検討を重ね、本日の会議に至っています。</p> <p>次に、資料の裏面を御覧ください。一番上に『策定検討会議の検討内容(予定)』と記載されています。</p> <p>左側には計画の構成案があり、第1章から第4章までが全体構想となります。</p> <p>本日は、右側の赤枠で示したとおり、この全体構想について検討します。</p> <p>また、第3回では地域別構想、第4回では計画の素案を検討し、その後パブリックコメントを経て、第5回で最終案を審議し、計画の完成へと進めていきます。</p>

	<p>次第1の「はじめに」ということで、全体のスケジュールについて改めて共有させていただきました。説明は以上です。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>それでは、引き続き次第の2「議題」について、事務局よりお願いします。</p>
<p>事務局 (担当)</p>	<p>【資料1の説明】</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、先ほど申し上げたとおり、第1章から第4章までを各章ごとに分けて意見を伺いたいと思います。</p> <p>まずは第1章についてです。該当ページは1ページから6ページまでとなります。</p> <p>ここに記載されている内容は、最終的にマスタープランの文書としてまとめられる言葉のデモ版となっています。その背景にある意図やビジョンなども踏まえ、御質問や御意見がありましたらお聞かせください。</p> <p>第1章について御意見や御質問のある方はおられますか。</p>
<p>川口委員</p>	<p>章立てに関して、前計画の検証が第1章の最後にありますが、一案として第2章の最後に配置し、まとめを加える形にしてはどうかと考えました。</p> <p>現状の特徴を踏まえ、前計画の進捗を振り返りながら今後の構想を練っていくというか、現時点で不足している点や今後求められる魅力は何かを見ると良いと思います。例えば、前計画の5ページにある将来フレームでは、現状の特徴として人口に関する説明があり、その内容と併せて前計画の達成度や課題を振り返ることで、より分かりやすい構成になるのではないかと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>第1章の6にある前計画の検証についてですが、これは前回の都市計画マスタープランで目指したものが実際にどのような結果につながったのかを整理し、今後の計画に大きな影響を与える要素として位置付けられていると思います。</p> <p>この前計画の検証を第2章の最後に配置してはどうかという御提案ですね。この点について、皆様の御意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>目次を御覧いただくと章立てが分かりやすいかと思います。</p> <p>川口委員の御意見のとおり、第2章は「尾張旭市の特徴」として、現在の状況を整理する部分になっています。その中に前計画の検証を組み込むことで、今の市の状況をより明確にし、第3章以降の構想へスムーズに展開できるのではないかと考えます。</p> <p>そのため、現在第1章の6となっている前計画の検証を第2章の3として配置することを、改めて検討したいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ちょうど第3章からこれからの構想に入るため、その直前に前計</p>

(水津委員)	<p>画の検証を配置するのが分かりやすいのでは、という御指摘ですね。ありがとうございます。ぜひ検討をお願いします。</p> <p>他にいかがでしょうか。第1章についてはよろしいでしょうか。また後ほど振り返りたいと思います。</p> <p>それでは第2章について、範囲は7ページから25ページまでとなります。この章では尾張旭市の特徴を整理していますが、この特徴も入れるべきではないかといった御意見も含め、何か御質問、御意見があればお願いいたします。</p>
野村委員	<p>10ページの将来人口推計について、年代別の内訳のような詳細なデータも含まれているのでしょうか。それとも、人数のみの記載でしょうか。</p>
事務局 (係長)	<p>10ページの中央の表には、年齢4区分での将来人口の見通しが記載されています。この表を見ると、グラフの一番左のオレンジが0～14歳の推移を示しており、現時点から将来に向けた予測がされています。年代ごとにグラフで示しています。</p>
野村委員	<p>率が見にくいので、棒グラフの中に率を入れると、より分かりやすくなるのではないかと思います。</p>
事務局 (係長)	<p>グラフの構成を工夫して見せ方を検討したいと思います。</p>
会長 (水津委員)	<p>積み上げグラフの方が分かりやすければ、その方法を採用するのも良いと思います。そうすれば、各年代の構成が一目で把握しやすくなると思います。</p>
事務局 (係長)	<p>そのとおりだと思います。ありがとうございます。</p>
会長 (水津委員)	<p>それについては検討し、見やすい方法を選択することにしましょう。他にはいかがでしょう。</p>
鈴木委員	<p>16ページの「徒歩圏内に生活利便施設が揃っているまち」についてですが、現在の図ではエリアが黄色く示されているだけで、具体的な施設の位置が分かりにくいと感じます。</p> <p>商業施設、医療・福祉施設、子育て施設などがどこにあるのかを、ポイントデータとして示すことで、より分かりやすくなるのではないのでしょうか。</p>
会長 (水津委員)	<p>この図の中には、各施設のポイントデータが含まれているはずですよ。</p>
鈴木委員	<p>施設の点が色分けされて表示されているとより分かりやすくなると思います。ぜひ、その点も含めて検討をお願いします。</p>
会長 (水津委員)	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
加藤委員	<p>商工会の視点で、21ページについて、今後の商業の発展は基本としつつ、工業の活性化も重要になると思います。</p>

	<p>10ページの4区分による将来人口の見直しを見ると、緑のプロット部分が働き世代に当たるのかなと思います。人口が減っていく中で、工業用地も必要になってくる一方、働く世代にとっての働きやすさも大事ではないかと思います。働けるけれど、様々な理由で働けない人たちに対して、何か働きやすさにつながる対策があれば、人口が減っても働く人口は増えるのではないかと感じます。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>関係人口を増やす対策という意味ですか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>そうです。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>何かそういった計画など、今後予定されていますか。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>都市計画マスタープランで働く場所を確保するということを記載する場合、例えば土地利用の方針で働く場所となる工業地や産業系市街地を検討しているというようなことを方針として記載しています。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>例えば提案ですが、今回は10年を見据えた長期的な視点で考える中で、誘致が活発になれば、それに伴い働く人が増えていくことが想定されます。そうした誘致がしやすく、積極的に進められる環境の整備が重要になってくるのではないかと思います。一つの提案として、御検討ください。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>ありがとうございます。 計画書の21ページの「働く場の創出」について、現在、必要な施策として工業集積地の整備や企業進出の支援を記載しています。ただ、御指摘の趣旨としては、市として企業が進出しやすいような支援策の検討が必要ではないかということかと思えます。その点については、市民生活部と連携しながら、内容を検討していきたいと思えます。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>この支援には具体的にどのような内容が含まれているのでしょうか。誘致ではなく、支援という点について、どのような施策を想定されていますか。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>企業誘致という言葉は、多くの自治体では工業団地を整備し、企業が進出しやすいように土地を準備し、併せて支援策を講じる取組を行っています。しかし、尾張旭市の場合、市内に工業団地などのスペースがないため、誘致という表現は適さないのではないかと考えています。そのため、現状では「企業の進出を支援する」という表現を用いています。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>何もやらないよりは良いですが、積極的に工業団地を整備し、インフラを整え、税制優遇を行って誘致するところまでは難しいのが現状だということですね。ただ、関係人口を増やすために何らかの対策を講じるべきだという御提案かと思えます。これは、今</p>

	<p>後の人口減少の課題とも関連する重要な論点だと考えます。 他にはいかがでしょうか。</p>
川口委員	<p>農地については、現在は緑地の扱いとしてのみ記載されていますが、産業としての位置付けも必要ではないかと感じています。その部分を出ししなくても良いのか、少し気になりました。</p> <p>市内にどの程度の規模で農地があり、どのように位置付けられているのかが不明瞭なため、現時点では具体的な範囲は分かりませんが、将来都市構造図においても農地が緑地ゾーンとして位置付けられています。もちろん、緑地としての機能を持つ一方で、産業としての役割もあるため、多面的な要素があると考えます。</p> <p>そのため、農業に関する内容として、農地の保全や、今後の土地利用の方向性などについても記載する可能性があるのではないかと思います。</p>
会長 (水津委員)	<p>農地の問題については、これまで特徴の一つとして扱われており、現状としては生産力よりも景観や自然環境、緑地としての評価が主となっています。しかし、例えば食料自給率向上の観点から、今後、農業への支援が手厚くなる可能性もあり、その場合、農地の役割はより重要な論点となるかもしれません。</p> <p>そうした長期的な視点で見ると、川口委員がおっしゃるように、農地を緑地としてのみ評価するのではなく、産業としての側面も考慮すべきではないかと思います。今回の計画は20年先を見据えた10年の計画ですので、農地の扱いについて改めて検討していただければと思います。</p>
事務局 (係長)	<p>現在、農地については工業・商業・農業といった産業の一つとして位置付けています。第1回の会議では現状把握の一環として、にぎわい・活力の項目で、農業の振興に関する資料も御提示しました。</p> <p>農業については、尾張旭市の限られた農地の中で農業従事者が減少している状況があり、そうした農業従事者への支援施策についても議論されました。ただ、計画のまとめ方として、20ページ、21ページにある「尾張旭市の魅力」と「今後求められていること」の章立ての中で、農業をどちらに位置付けるかを検討した結果、今回はまとめからは省いた経緯があります。</p> <p>今回いただいた御意見を踏まえ、農業の課題について改めて検討したいと思います。</p>
会長 (水津委員)	<p>検討をお願いします。</p> <p>他にはいかがでしょうか。第2章はよろしいですか。</p> <p>座組が変わると、いくつかの構成にも影響が出る可能性がありますので、その点を検討してからになりますね。</p> <p>それでは、第3章はいかがでしょう。</p> <p>第3章は、まちづくりの理念や目標、今後のことに関わるフレー</p>

	<p>ムに関する内容が多く含まれています。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>気になる点として、特に29ページの人口フレームと産業フレームについて、産業フレームでは目標を設定し、その目標を達成するために農地をどの程度転用するのかといった努力の方向性が示されています。一方、人口フレームについては目標ではなく予測が示されており、その予測に基づいて住宅供給が余るため、新たな宅地開発はしないというやや受動的な対応が書かれています。</p> <p>この受動的な対応には二つの考え方があると思います。一つは、予測に対してそのまま従うというもの。もう一つは、何らかの施策を講じて、少しでも魅力的なまちをつくることで、減少傾向を緩和することを目指すものです。しかし、現状の記述では、そうした考え方の違いがはっきり示されていないため、都市計画として人口問題にどう向き合うのかが分かりにくいと思いました。そのため、もう少し細かく書くと良いのではないかと思います。</p>
事務局 (係長)	<p>29ページの人口フレームについてのお話かと思いますが、こちらは上位計画である第六次総合計画の目標年次人口82,838人と整合を図る形で設定しています。</p> <p>第六次総合計画では、人口の目標値について、予測よりも高い数値を目指すという記載はされていません。そのため、市として人口減少にどのように対応していくのかについては、現在、庁内で議論を進めているところです。</p>
会長 (水津委員)	<p>そうですね、人口の取り合いが生じる中で、税収の確保も重要ですし、都市サービスを維持するためには、魅力あるまちをつくり、人口を維持できる状況を目指して努力することが求められると思います。</p>
事務局 (係長)	<p>第六次総合計画でも、この都市計画マスタープランでも、人口の目標値は定めていませんが、人口の減少速度を遅らせるための施策を実施するという方針で進めています。目標設定については、上位計画との整合性もあるため、一度検討したいと思います。</p>
会長 (水津委員)	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p>
川口委員	<p>先ほどの部分に関連しますが、人口フレームはあくまで目標値ではなく、推計という認識でよろしいでしょうか。つまり、将来の人口を見通した推計であり、こうしていこうという方針を示したものではない、という理解でよろしいでしょうか。</p> <p>都市フレーム全般についてですが、これは目標値ではなく推計値であり、その推計に基づいて今後の土地利用や施設整備の方針を考えるものだと思います。ただ、この『フレーム』という言葉自体が一般の人には聞きなじみがないため、少し分かりにくい印象を受け</p>

	<p>ました。</p> <p>(1)と(2)については、人口フレーム、産業フレームが何を示しているのか明示されていますが、(3)と(4)については、例えば、住居系土地利用フレームとはこういうことを意味しますといった説明がないため、こちらも追記すると、より分かりやすくなるのではないかと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>なるべく専門用語を使わずに分かりやすく表現したいですね。何か良い言い方がありましたら、また御提案ください。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>ここで申し上げたいのは、将来の目標年次における人口の規模、産業の規模、住宅用地の規模、産業用地の規模をどのように設定するか、つまり目標値をどのように決めるかということです。</p> <p>そのため、フレームという専門的な言葉を使うと、市民には分かりにくいかもしれないため、より分かりやすい表現に変更したいと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>規模算定という表現も建築分野の印象が強いため、適切な言葉選びが重要になると思います。言葉の使い方については引き続き検討し、概念の説明も整理していきたいと思います。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p> <p>26ページにある公園都市という言葉ですが、これはいつから使われている言葉なのでしょうか。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>公園都市という言葉は、尾張旭市では総合計画で用いられてきたものですが、最も直近で使われていたのは第四次総合計画、つまり二つ前の総合計画となります。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>そうですか。何年ぐらい前の計画になりますか。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>平成16年度からです。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>分かりました。</p> <p>あとはよろしいでしょうか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>公園都市という言葉についてお話がありましたが、私の印象としては、大きな公園がいくつかある点では、公園都市という表現が適していると感じる一方、まちなかには意外と緑が少ない印象を受けました。</p> <p>私自身、学生時代に仙台に住んでいたのですが、仙台は杜の都と呼ばれ、街路樹をはじめとする豊かな緑が印象に残っています。そのため、公園が整備されている一方で、まちなかの緑が少ないという点が気になりました。</p> <p>先ほど三郷のまちを歩いてきた際にも、まちなかにもう少し緑があれば良いのではと感じました。公園都市として打ち出すのであれば、公園だけでなく、まちなかの緑も意識したまちづくりが求めら</p>

	<p>れるのではないかと思います。</p> <p>この点について、直接この部分の記載内容と関わるかは分かりませんが、今後の議論にも関係してくるかもしれませんので、一つの意見としてお伝えします。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>実際、そのとおりであると思います。森林公園は立派ですが、市街地にはほとんど緑がないのが現状だと思います。こうした大きな概念をきっかけに、より緑豊かなまちへと変わる契機になれば良いと思います。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>特に、産業フレームの記載があるように、今後、農地から産業用地への転換が進むことで、かえって緑が減少する方向に向かう可能性も懸念されます。そのため、この点をしっかり注視しながら、目標として掲げる以上、実現に向けた取組が求められると考えています。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>総量としては一定の緑があるのかもしれませんが、実際に生活の中で感じられる緑、いわゆる体感的な緑の量が少ないのではないかという評価も考えられます。そのため、評価の視点も工夫しながら取り入れていけると良いかもしれません。ありがとうございます。</p> <p>それでは、40ページ以降の第4章「まちづくりの方針」について、御意見を伺いたいと思います。</p> <p>紙面上の表現に注目しがちですが、先ほど鈴木委員がおっしゃったように、こうありたいというビジョンを実際のまちの中でどのように実感できるかという視点も重要かと思います。そういった観点も含めて御発言いただければと思います。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>市内総生産を増やす目標に関連する施策が、まち育ての方針にあまり反映されていないように感じます。先ほど挙げられたような企業誘致や産業の活性化といった具体的な内容が少なく、コーディネーションや共創といった抽象的な方向性に留まっている印象があります。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>いかがでしょうか。40ページの左下には、「にぎわい・活力」の中で、今後必要な取組として工業集積、企業誘致と記載されています。そのまま横にスライドして共創の部分へ進むと、まち育ての話に移行しており、そこでは工業集積や企業誘致に関する記述があまり見られないという御指摘ですね。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>他に該当する部分がまちづくりの方針の中にはあまりなく、おそらくこの内容はまち育ての項目に含めるのが適切ではないかと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>確かに、全般的にまちの活力を高める視点の項目がやや不足しているように感じますね。産業の活性化や企業誘致といった具体的な取組が、まち育ての中で十分に反映されているか、もう少し整理が</p>

	<p>必要かもしれません。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>40ページでは、まちづくりの方針の背景を右側に示し、住宅地、都市防災、公園緑地・水辺、道路といった、主にハード面の方針を中心に記載しています。</p> <p>立地支援については、土地利用の部分に少し記載した記憶があります。御指摘いただいたようなソフト面の方針をどこに記載するかも含めて検討していきたいと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>これは、先ほどの発言が断片的に出ていた、人口をどうしていくのか、商業・産業をどう高めていくのか、企業誘致の話、そしてそれらをどこでどのように推進していくのかという方針の位置付けが分かりにくいということかと思います。</p> <p>これらの一連の流れが明確に示されていないため、重要なテーマにも関わらず見えづらい状況になっています。だからこそ、もう少し整理して、より分かりやすく記載したほうが良いのではないかと御指摘ではないでしょうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>確認になりますが、公園都市という言葉は、これまでのワークショップの中で、住民が感じる魅力としてぴったり当てはまったために残している、というイメージでしょうか。</p> <p>つまり、魅力あるまちだからこそ住みたい、という住民の意識が背景にあるのではないかと。その場合、外部から見たまちの印象というよりも、住んでいる人たちが実際に感じている魅力を基にした考え方なのかもしれません。</p> <p>一方で、人口については、外からの流入をどう促すかという視点が別があり、産業の活性化によって人口が増える側面もあるため、これらを必ずしも結びつける必要はないのではないかと、いう考えもあるのかなと思いました。</p> <p>また、公園と緑はイメージとしては一体的なものとして捉えられますし、現在、川沿いの整備が進んでいることを考えると、散歩しやすい環境や、安全に歩ける空間の整備が進むことで、より住民が感じる魅力につながっていくのではないかと思います。</p> <p>あまり深く考えていなかった部分ですが、お話を聞いていてそのように感じました。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>今住んでいる住民の満足度をどう上げていくかという話と、例えば長久手市のように、企業誘致を積極的に行わなくても、住みやすさや住み心地の良さによって外部からの流入が人口の50%を占めるようなまちも近隣にあるという点を考えると、そうした魅力を高めることが今後の強みになるのではないかと感じます。</p> <p>人口というのは非常に大きな指標ですが、それを1つの目安としながら、魅力を高める施策の意思決定を早めることは、分かりやすく有効なアプローチだと思います。現在の記載内容についても、価</p>

	<p>値を高めることが既存の住民向けだけではなく、外部からの流入を促す視点も含めるべきではないかと考えます。</p> <p>また、働く場所を確保すること自体が人口増加の手段の1つであり、この2つの要素（住みやすさの向上と働く場所の確保）を都市計画の戦略の中でどのように位置付け、総合計画との整合性を保ちつつ、どの程度明確に構造として組み込んでいくかは、重要な検討課題ではないでしょうか。</p> <p>この点について、あまり大きく変更する考えはないのか、それとも調整を検討されるのか、どのようにお考えでしょうか。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>今、お話しいただいたまち育てについて、40ページを御覧いただくと、その流れが先生から御指摘のあった「にぎわい・活力」の一番左下にある「商業機能の維持・強化」の必要性を示しながら、横にスライドしていく中でその要素が欠けているという点について、御指摘をいただいたのかなと思います。</p> <p>また、36ページの土地利用の方針にある商業業務地区の中では、「魅力的な商業施設」と記載されていますが、利便性の向上や工業の集積、雇用創出といった施策が十分に書かれていないという点も御指摘いただきました。</p> <p>そのため、これらの要素をどのように落とし込めるか、一度検討したいと思います。現在のまち育てのイメージは、どちらかという市民とともにまちを育てていく共創の視点に重点を置いています。これをどう整理し、右側の流れに適切に組み込めるか改めて検討したいと思います。</p>
会長 (水津委員)	<p>ここは、おそらく三郷で進めているまち育てのプロジェクトをイメージされているのだと思います。ただ、左側からの流れを考えると、他にも重要な要素があり、それらが十分に組み込まれていないため、片手落ちになっているのではないかと御指摘だったかと思います。</p> <p>そのため、これらの要素をどのように構造化し、全体の中で整理していくかについて、一度検討していただければと思います。</p>
事務局 (都市計画課長)	<p>先ほど皆様からお話しいただいた緑の話についてですが、少し第3章の内容に戻ります。</p> <p>26ページの「まちづくりの理念」については事務局として作成したもので、元々の公園都市という言葉が今回、再び使用することにしました。これは、ワークショップなどで、市民の皆様から尾張旭市の魅力は緑の豊かさや人のつながりにあるという意見が多く寄せられたことを受け、今後さらにその魅力を高めていくという意図があります。</p> <p>今回の計画では、過去に使われていた公園都市という言葉だけを踏襲するのではなく、質を高めながら発展させていくことを目指し</p>

	<p>ています。その質の向上を通じて、単に人口減少を受け入れるのではなく、それに対抗し、市民の満足度を向上させながら、対外的にも魅力を発信していくという考え方が根底にあり、この理念が今後の計画の肝となる部分であると考えています。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>章に関係なく、自由に議論を進めていただいて構いませんので、これまでの内容の中でまだ指摘していない点や質問がありましたら、御自由に御発言ください。いかがでしょうか。</p>
<p>川口委員</p>	<p>第4章の40ページについて、いくつか気になる点があります。</p> <p>例えば、左側の「特徴」の4つ目にある「生活利便性」の部分ですが、ここでは「生活利便施設が整っているまち」と、ポテンシャルを持たせた表現がされています。しかし、方針の中ではその要素が十分に反映されていないように感じます。</p> <p>この点について、例えば、継続的に状況を見守るといった視点や、生活利便性を維持・向上させるための方針をどのように位置付けるかを検討することで、魅力を高める観点をより明確にできるのではないかと思います。方針の中で落としてしまっている要素がないか、改めて確認してみると良いのではないのでしょうか。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>特徴と方針の関係について、もう一度確認したほうが良いのではないかといいことですね。</p>
<p>川口委員</p>	<p>緑・水辺に関する目標について、「緑や水辺を大切に守り未来に引き継ぐ」と記載されています。ただ、守るだけでなく、つくる、使う、維持管理するといった視点も重要ではないかと考えます。</p> <p>例えば、提案として、「緑や水辺を大切に守り、つくり、使う」といった表現を加えることで、活用や維持管理の視点も含められるのではないのでしょうか。使うという言葉には、単に利用するだけでなく、保全しながら活用するという意味も含まれます。そのため、これらのニュアンスをキーワードとして追加すると、より分かりやすくなると思います。</p> <p>それに関連して緑・水辺の部分ですが、45ページのまちづくりの方針の「公園緑地・水辺・都市景観」について、公園緑地という表現があると、どうしても都市公園や森林緑地といったイメージが強くなるのではないかと感じます。</p> <p>例えば、46ページの都市緑化の部分には、民有緑地や地域性緑地といった概念が含まれています。尾張旭市の場合、農地景観や周辺の森林もあるため、緑地といえば公園や山林のイメージが中心になりがちですが、実際には個人の庭やまちなかの緑も重要な要素になります。</p> <p>今後、まちなかの緑を考えていく上では、民有地の緑も意識した取組が必要ではないのでしょうか。そのため、公園緑地という枠組の</p>

	<p>中に含めるのではなく、別の要素として特出しすることも検討してはどうかと思います。</p> <p>そういった意味で、維持管理を含めた緑や水辺の活用についても、今後の方針に組み込む必要があると感じました。</p> <p>また、都市景観について、関連計画として環境基本計画などでも触れられていると思います。そして、都市計画マスタープランと最も関係の深い計画として立地適正化計画があります。その中では、低炭素なまちづくりをどのように進めるかが必ず示されているはずです。</p> <p>そうした観点から、環境面での土地利用や都市施設の整備方針をどこに位置付けるかが課題になると考えます。例えば、『公園緑地・水辺・都市景観』の項目に追加するのが適切かどうかは検討の余地がありますが、計画の中に環境面での視点を明確に示すことは重要ではないかと思いました。</p> <p>あるいは、交通のところで低炭素的な話をしていくという中で、できるかもしれないですが、そういったようなことを少し御検討いただけたらなと思いました。</p> <p>また、道路・交通についてですが、現在の記載では道路と交通が並列に書かれている点について、構成が適切かどうかを検討する必要があるかもしれません。</p> <p>鈴木委員の御意見も伺いたいところですが、一般的には交通の中に道路が含まれる形で整理されることが多く、加えて、公共交通や駐車場、駅前広場といった施設も一体的に考えられるべきだと思います。</p> <p>特に、道路を特出しする形になっていることで、『道路整備を都市計画として特に強化する』という意図があるように読み取れる可能性があります。その方針が計画全体の方向性と合致しているのか、あるいはもう少し交通全体の体系の中で整理すべきかを、改めて確認する必要があるかと思います。</p> <p>第4章については、他にもありますが、ひとまず以上となります。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>それでは、まず道路・交通の部分について、この整理の仕方に違和感があるのではないかと、という点について御意見を伺いたいと思います。</p> <p>鈴木委員、この点について、何か御意見はございますか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>やはり、道路は交通の一部に含まれるというのが一般的な理解であり、その点については私も同じ認識です。ただ、現在の構成では(1)道路、(2)交通と並列に記載されており、これには少し違和感があります。</p> <p>もし、(2)の項目が公共交通であればまだ分かりやすいのですが、「交通」という表現は広すぎるため、交通全体を包括する概念にな</p>

	<p>ってしまうのではないかと思います。</p> <p>そのため、言葉の整理をもう少し明確にすることで、意図が分かりやすくなるのではないかと考えます。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>交通という言葉の代わりに「移動」という表現も考えられますね。人が活力ある生活を送るためには移動が不可欠であり、そのシステム自体が時代の変化によって大きく影響を受けています。</p> <p>例えば、自動運転のインフラ整備が必要なのか、それともAIによる自己完結型のシステムが発展すれば、都市側の整備があまり必要なくなるのか、といった点も検討の余地があると思います。また、そうした新しい移動の形を都市の中で社会実験的に進めていくことを積極的にアピールするという方向性も考えられます。</p> <p>現在、市内ではあさび一号が運行されていますが、それ以上にコミュニティの活性化を促すための移動手段を、都市計画としてどう位置付けるかは、今後の新しいテーマになり得るのではないのでしょうか。</p> <p>この点について、都市計画の視点から何か検討されていることがあるか、御意見を伺えればと思います。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>移動に関しては、新たな移動手段について50ページに少し記載があり、「公共交通を取り巻く先進技術の普及状況を踏まえ、必要に応じて地域の実情に合った新たな移動手段の活用を研究する」と示されています。</p> <p>現在、移動手段は多様化が進み、先進技術の発展スピードも非常に速いと認識しています。そのため、尾張旭市にとって最適な移動手段が何かは、現時点では検討段階であり、今後の動向を踏まえながら引き続き検討していく必要があると考えています。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>東京大学の自動運転プロジェクトが、実験都市を募集しているそうです。友人が関わっているとのことですが、手を挙げたら何か新しい試みができるかもしれないですね。</p>
<p>事務局 (係長)</p>	<p>川口委員より御指摘された40ページの生活利便性について、尾張旭市としての生活利便施設に関する考え方は、その後話に出た立地適正化計画にも一部記載されています。具体的には、現状の生活利便施設を維持・確保するという方針が立地適正化計画には盛り込まれています。</p> <p>ただし、都市計画マスタープランには同様の表現が記載されていないという状況です。立地適正化計画は都市計画マスタープランに含まれる計画であるため、同じような文言を都市計画マスタープランに記載しても違和感はないと考えます。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>計画の位置付けでは、都市計画マスタープランと立地適正化計画が並列して記載されている形になっています。</p>
<p>事務局</p>	<p>立地適正化計画も都市計画マスタープランの一部として位置付</p>

(係長)	けられており、そこに人口減少社会への対応という視点を加えた形になっています。
会長 (水津委員)	<p>立地適正化計画は、人口減少に伴い歳入が減少し、都市サービスの維持が難しくなることを見越して、サービス提供のコストを抑えるための計画として展開されています。そのため、都市計画上でも、サービスの集約と分散のメリハリをつけることが求められるということになるかと思えます。</p> <p>そう考えると、都市計画マスタープランの中でも、このメリハリを明確に示す方針を掲げて良いのではないかとという視点があります。例えば、農地の話もそうですが、現状では『緑が魅力的』と言われながらも、生活実感としてはあまり感じられないという課題があります。このような状況を改善するために、都市計画の方針をより明確にし、実感につながる施策として打ち出すことができるタイミングなのではないかと考えます。</p> <p>川口委員から指摘された内容で、まだ十分に答えられていない点が残っていないか、確認したほうが良いかと思えますが、大丈夫でしょうか。</p>
川口委員	緑・水辺に関する内容が未回答です。
事務局 (係長)	<p>御指摘のとおり、言葉の整理についてはまだ十分に検討できていない部分があり、いただいた御意見を参考にさせていただきたいと考えています。</p> <p>また、現在の構成では「公園緑地・水辺・都市景観」という区分になっていますが、公園という言葉から入るのではなく、目標の部分では「緑・水辺」という表現を用いているため、方針の分け方についても改めて検討したいと思えます。</p>
会長 (水津委員)	<p>川口委員が以前いらっしゃった研究室で都市の排水に関する研究を行っていたかと思えますが、浸透する土地が減少すると下水・排水インフラへの負担が増加し、洪水被害が拡大するという課題があります。そのため、一定以上の未被覆地を確保すべきという考え方がありますね。</p> <p>このような指標は計算上で求められるはずですが、尾張旭市でも同様のシミュレーションを行うことは可能でしょうか。例えば、名古屋大学に依頼すれば計算してもらえる可能性があるのか。</p>
川口委員	今は分かりません。私自身、その技術は持っていません。
会長 (水津委員)	<p>水害に関する部分について、公園の項目でグリーンインフラの概念が記載されていたこともあり、雨水排水に関する指標があれば、それを追加するのも良いのではないかと考えました。ただ、私はその技術を持っているわけではないため、あくまで考え方としてどうかという視点での提案になります。</p>
川口委員	もしそのような内容を加えるのであれば、特徴の部分で整理する

	<p>形になるかもしれませんが。既に記載されている防災の水害対策や公園緑地のグリーンインフラの考え方については、現状、特段おかしな記述ではないように感じます。実態を整理するという意味では検討する余地がありますが、こうした取組は比較的予算がかかるものだと考えられます。</p> <p>それから先ほどのまち育てに関する議論ですが、産業や工業集積、企業誘致といったトピックを加えるべきという提案には賛成です。市民団体や地域団体に向けた体制構築や方法の研究が多く書かれている点も評価に値しますし、駅前まちづくりのような民間事業者の新たな取組を促す方向性も記載されている点は素晴らしいと感じました。</p> <p>ただし、現在の記載では、今ある体制がどのようになっているのか、市民活動支援センターなどの関連機関との関係や支援・助成の仕組みが具体的に示されておらず、現状が不明瞭なまま新しい取組が突然出てくるように見える部分があります。</p> <p>そのため、現在の状況を第3章で整理した上で、第4章では今後の研究課題を明確にするというすみ分けを行うと、全体の構成がより分かりやすくなるのではないかと思います。具体的には、現状の民間活動や市との関わりを記載し、何が足りないのかを示した上で、これから取り組むべき課題を提示することで、まち育ての内容がより効果的に伝わるようになると思います。</p>
会長 (水津委員)	まち育てという言葉が唐突であるという御意見、この辺はいかがでしょうか。
事務局 (係長)	確かに、既存の市民活動支援センターに関する内容が記載されていない部分があります。いただいた御意見を踏まえ、センターの現状と取組を確認するところから再検討したいと思います。
会長 (水津委員)	現状があるのであれば、特徴の部分から紐づけを始めるのも良いと思います。
事務局 (係長)	<p>紙面デザインの観点からも、市民に分かりやすい表現を目指すため、自治体が現在行っているトピックスを差し込む方法も考えられます。どのような見せ方が最適か、デザイン面も含めて再度検討していきたいと思います。</p> <p>例えば、三郷で実施しているまち育てプロジェクトのような取組を紹介するトピックスコーナーを設けることも、今後の方針として検討すべきでしょう。現在、その部分が全く盛り込まれていないため、内容の精査を進めていきます。</p>
会長 (水津委員)	<p>まち育てという言葉はあまり広く知られていないため、用語解説にも含まれていない現在の状態では、突然出てきても意味が伝わりづらいかと思います。</p> <p>あとはいかがでしょうか。</p>

<p>オブザーバー代理 (小島課長補佐)</p>	<p>全般的な話で恐縮ですが、現在の第4章や第5章は文字量が多く、読むのに少し疲れる印象があります。まち育てのように、非常に良い取組であるからこそ、フローチャートやイラストなどを加えて、資料全体を視覚的に分かりやすくする工夫が有効ではないでしょうか。</p> <p>また、戻りますが、第4章の32、33ページに記載されている中心拠点や拠点形成方針についても、もう少しイメージがしやすくなると良いと感じます。例えば、三郷駅前広場や自由通路の活用について具体的なイメージを添えることで、計画内容を市民にもより直感的に伝えやすくなるかと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>もっとイラストや図を増やし、文章量を抑えるほうが良いという御意見ですね。</p>
<p>オブザーバー代理 (小島課長補佐)</p>	<p>はい。文字が多いため、イラストや図を入れていただくと良いと思います。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>ありがとうございます。ぜひ検討してください。</p>
<p>水戸部委員</p>	<p>全体的な意見として、防災・災害対応についての懸念が十分に記載されていないように感じます。特に、南海トラフ地震がほぼ来るだろうと言われているこの10年間においては、少なくとも広域防災の必要性を明記しておくことが重要ではないでしょうか。</p> <p>現在、耐震化の話は出ていますが、予測震度を考えると、耐震化はもちろんのこと、家具固定が最重要課題となります。その点を含めて、災害対策にどのように取り組むのかを記載していただければ、より充実した内容になると思います。</p> <p>現在の内容では災害に強いという主張が地形的な理由に留まっているように感じられますので、これに加えて具体的な取組や方針を盛り込むことで、読者にもより納得してもらえる防災計画になるのではないかと思います。</p> <p>水辺関連の課題について、矢田川河川敷と維摩池周辺が同じように扱われているケースがありますが、具体的な使い方や利点が明確にされていないと感じます。特に矢田川では道路から河川敷へ安全にアクセスできる手段が非常に限られている現状があります。左岸側は、横断歩道がほとんどなく、交差点から河川敷に降りる手段もほぼない状況です。そのため、駐車場を作ることが計画されているようですが、駐車場を作るだけでは何を目指しているのかが不明確です。</p> <p>また、実際に矢田川を訪れている人の多くは市内や近隣の名古屋市の住民が中心で、徒歩で来る人が多いことも現実です。そのため、オープンスペースを整備するのは良いとしても、まずは市民が安全に河川敷へアクセスできる手段を確保し、その上でそのスペースの</p>

	<p>活用方法を具体的に考えるべきではないかと思います。</p> <p>自転車通行空間について、49ページでは河川敷に自転車道を作ることが明記されていますが、市全体の自転車通行空間整備の文脈ではこれだけで十分とは言えないと感じます。名古屋市から尾張旭市まで既に整備された自転車道があり、それを瀬戸方面に繋げることで、名古屋圏全体の自転車道ネットワークを強化する方が有効かもしれません。</p> <p>45ページの公園緑地に関する記述についてですが、官民連携の下でPark-PFIを活用するという方針が書かれていますが、ここで指している『公園』が具体的にどの場所を指しているのかが曖昧です。全ての公園で同じ考え方を適用するのか、それとも特定の森林公園や城山公園などの大きな公園を対象にしているのかを明確にする必要があると思います。</p> <p>現在の記述では、あらゆる公園に適用可能と解釈される余地があり、それが児童公園などにも当てはまるかのような誤解を招く可能性もあります。その意図が含まれているのであればそれも明確化し、そうでなければ対象を絞るべきかと思います。</p> <p>あと繰り返しになりますが、市の防災計画との連携がまだ十分ではない状況かと思うので、広域防災の視点を明確にさせていただければと思います。名古屋圏として広域防災の重要性が高まっているため、計画の中にその内容をしっかり盛り込んでいただきたいです。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>地震に強いまちとして謳う部分についてですが、尾張旭市は地震被害予測システムにかなり投資してきたという背景があります。具体的には、建物の耐震強度や地盤構造の調査データを活用し、どのエリアがどの程度地震に影響を受けやすいのかを予測できる仕組みを構築している点が特徴的です。</p> <p>このシステムを活用すれば、特に影響を受けやすい建物に焦点を当てた耐震化チェックや防災対策が可能になります。その結果、災害時の初動対応もスムーズに行えるため、ただ地形的に地震に強いというだけでなく、行政が市民の安全を守るための具体的な仕組みを整えているということを強調すべきではないかと思います。</p> <p>そのため、計画の中でこれらの防災システムを具体的にアピールすることで、地震に強いまちと自信を持って表現できる内容にするのが良いのではないのでしょうか。</p> <p>全般的な御意見、いかがでしょうか。</p>
<p>奥村委員</p>	<p>市民目線では計画内容が読みにくいいため、市民は見ないと思います。</p> <p>それぞれの内容は理解できますが、本当に言いたいことが分かり</p>

	<p>にくいです。1回目の会議では、尾張旭市の充実した緑や山からの景観に触れて、住んでいて嬉しいと感じ、わくわくするまちづくりをしたいという気持ちが高まりました。ところが、計画の後半に進むにつれて人口減少などが出てきます。これをどうしても載せなければいけないのかという疑問が湧いてきます。</p> <p>住民は既に、年齢構成や市街化地域の制約、大きな工場や高層マンションが建ちにくい状況を理解しています。そのため、改めて人口減少の事実を記載する必要性には疑問が生じます。別の見せ方や新しい切り口を検討することで、より効果的な伝え方が可能ではないでしょうか。</p> <p>名古屋市近郊から尾張旭市に移り住んだ者として、まず印象的なのは緑や公園が非常に多いということです。かつては、公園があちこちにあって、子どもを遊ばせる場所にも困りませんでした。現在も住宅地には多くの公園がありますが、子どもたちが遊んでいる光景があまり見られないのが現状です。</p> <p>今後の課題として、単に子どもたちが遊ぶ場としての公園を提供するだけでなく、子育て世代が自然と集まり、コミュニケーションを取れるような場を作ることが重要ではないでしょうか。そういった取組を通じて、尾張旭市の住民の満足度を向上させるだけでなく、尾張旭市は子育てしやすい市だという魅力が広がり、移住してくる人を増やすきっかけにもなるのではないかと考えます。</p> <p>わくわくするまちづくりとして、多様な方針を示していく必要があるのはもちろんですが、やはり基本となる部分をしっかりと考えることが大切です。例えば、交通の利便性が十分でなければ、人は移住してこないという現実があります。日進市や長久手市のように、新たなまちづくりで道路を広げ、交通面を整備している地域が注目される中で、尾張旭市もこの点に取り組むべきではないでしょうか。</p> <p>三郷地区については、市民の期待も高く、これからどのように変わっていくのか楽しみにしているという声が多いように思います。そんな期待に応えるような、わくわくする内容を目指して欲しいです。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>都市計画をわくわくするものとして、もっと図版を入れることで親しみやすい内容にするべきだという点は確かに重要だと思います。そのとおりであると思いますので、努力したいと思います。</p> <p>他にはいかがでしょうか。</p> <p>今日は、全体構想の検討を進める中で、項目の抜けやバランスの偏りについて多くの御指摘をいただきました。この内容を補完することで、次回の6月に向けて地域別構想の議論を具体化しやすくな</p>

	<p>ると思います。</p> <p>また、次回の会議までの間に、大きな方針やビジョンがどのような形で具体的なイメージに結びつくかを共有することで、このまちの未来像に対する期待感が高まると考えます。今後の10年間で、まちをどのように良くしていくかを明確にする方針を示すことができれば、参加者全体の理解と共有も進むはずです。</p> <p>今回の議論は、全体構想の流れと、それに基づいて具体的な方針を描くための重要なチェックの機会と捉えています。</p> <p>まだ議論する時間は十分にありますので、抜けている部分や補足が必要な点があれば、ぜひ引き続き御指摘いただければと思います。</p> <p>第1章から第4章までの議論について、追加の御意見がなければ、一旦これで終了としたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>では、第1章から第4章までの議論は以上とさせていただきます。事務局のほうへお返しします。</p>
<p>事務局 (都市計画課長)</p>	<p>それでは、私のほうから1点お伝えいたします。</p> <p>第3回の策定検討会議の予定について、次回の会議は令和7年6月頃に開催を予定しております。本日の全体構想を含め、地域別構想などの部分について御審議いただきたいと考えております。</p> <p>具体的な開催日時につきましては、改めて調整させていただきたいと考えております。</p> <p>その他事項は以上です。</p>
<p>会長 (水津委員)</p>	<p>これで本日の都市計画マスタープラン策定検討会議は以上となります。お疲れ様でした。ありがとうございました。</p>